



三澤 楓
伊藤研究室

kamoshi

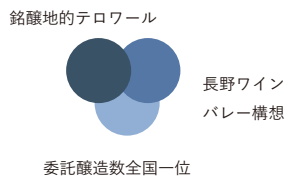
敷地：長野県小布施
用途：ワイナリー兼温泉施設



コンセプト

長野県における複合型ワイナリーの提案
従来のようなマニア向けの施設ではなく、温泉
を複合させオープンな施設としてのワイナリー

背景 長野県のワイン文化
長野県は恵まれた気候を生かし、
ワインの醸造用ブドウの生産が日本一位である。
一方ワイン生産は第6位であり、
そこにギャップが存在する。
そのギャップを埋めるため
県として政策を設け
この10年で小規模の
ワイナリーが多く生まれてきた。
つまり現状見いだせてないが
長野県は日本で最もポテンシャルの高い
ワイン醸造地である。



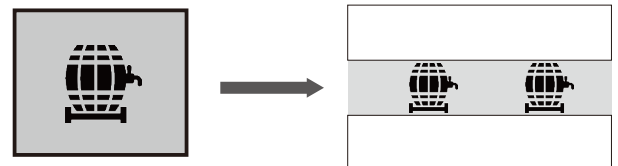
敷地

長野県小布施の小布施温泉
醸造用ブドウの銘醸地高山村と
観光地の小布施街から1kmほどの中間地点。
高山村のワインを広めながら
観光地小布施に新たな観光客を送り出す

プログラム

閉鎖的であったワイナリーを横に引き伸ばし、視線を抜けさす。

その引き伸ばしたプログラムに
他のプログラムを併設させ、開放的にする



設計手法

ワインの生産から比例という要素を門型のアーチの連続で表現

その際に山の等高線に合うようにヴォリュームを配置

背景 現代のワイナリー
現代のワイナリーだけの観光は不可能
と調査で明らかになっている。
現代のワイナリーはワイン生産テイス
ティング・その後を含めたワイン体験を
提供することが求められる。

